

厚生科学審議会 疾病対策部会
造血幹細胞移植委員会（第60回）

令和6(2024)年2月29日

参考資料
1

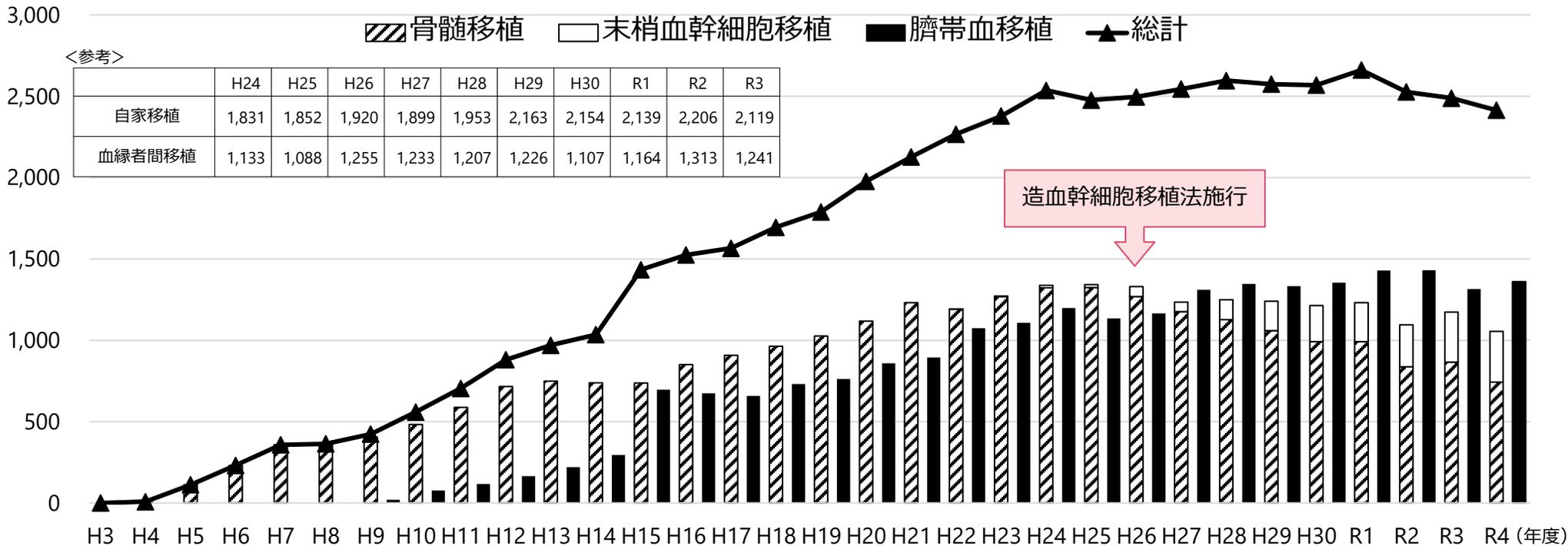
造血幹細胞移植の現状について

厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課
移植医療対策推進室

造血幹細胞移植件数の推移（非血縁者間）

- 造血幹細胞移植件数は、近年ほぼ横ばいであったが、令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症の影響等もあり減少が見られた。
- 平成27年度以降、臍帯血移植が骨髄・末梢血幹細胞移植を上回っている。
- 末梢血幹細胞移植が増加傾向、骨髄移植が減少傾向にある。

(単位：件)



	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
骨髄	0	8	112	231	358	363	405	482	588	716	749	739	737	851	908	963	1,027	1,118	1,232	1,191	1,269	1,323	1,324	1,269	1,176	1,127	1,059	992	992	838	869	744
末梢血	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	15	19	62	58	123	182	222	240	258	304	311
臍帯血	0	0	0	0	0	1	19	77	117	165	221	296	697	674	658	732	762	859	895	1,075	1,107	1,199	1,134	1,165	1,311	1,347	1,334	1,355	1,430	1,431	1,316	1,360
総計	0	8	112	231	358	364	424	559	705	881	970	1,035	1,434	1,525	1,566	1,695	1,789	1,977	2,127	2,267	2,379	2,537	2,477	2,496	2,545	2,597	2,575	2,569	2,662	2,527	2,489	2,415

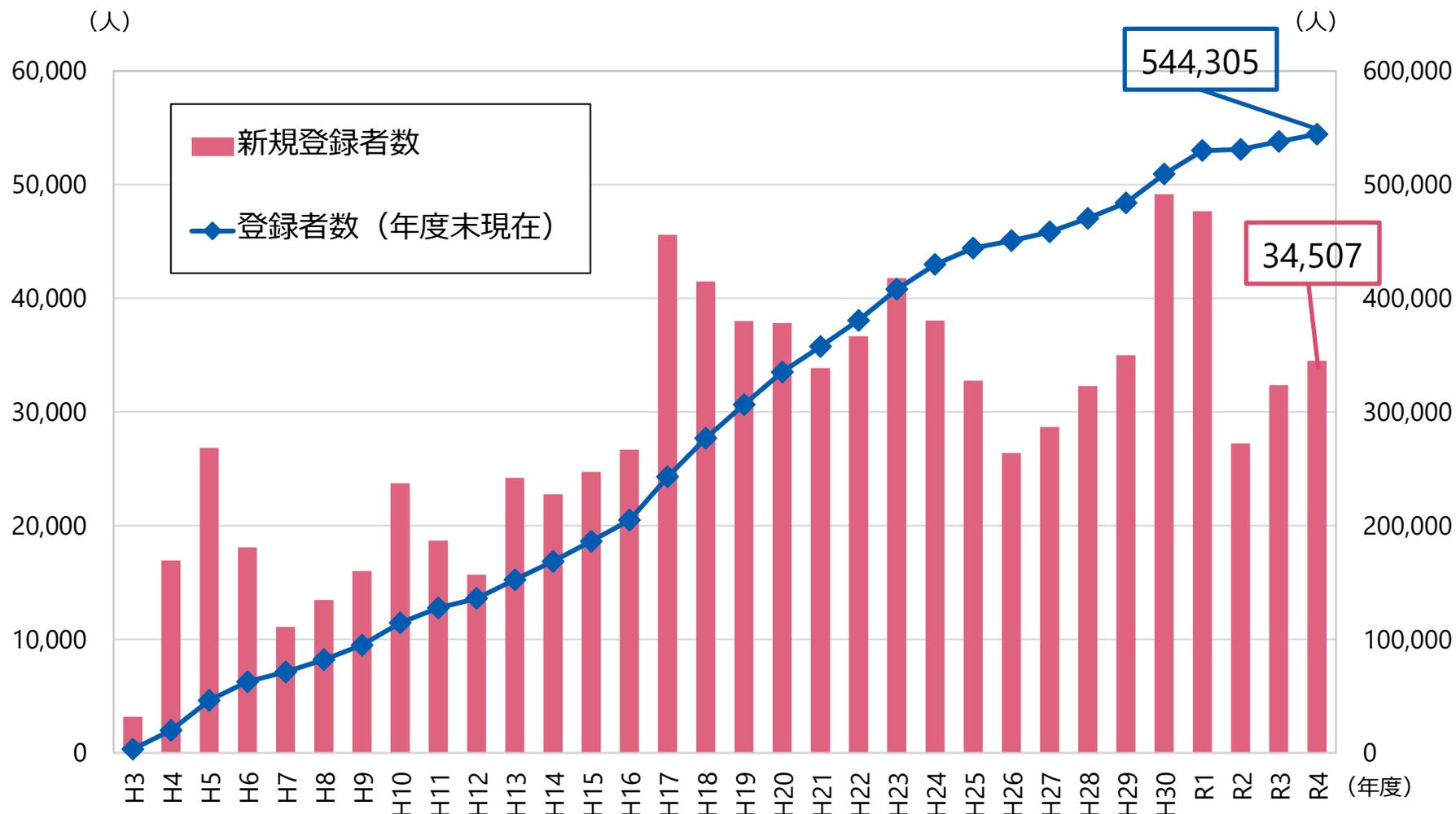
※末梢血幹細胞移植は平成22年10月より導入。

(各年度末現在)

(資料) 日本赤十字社、(公財)日本骨髄バンク及び日本造血細胞移植データセンターが提供した情報を元に厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室で加工

骨髄バンクドナー登録者数の推移

骨髄バンクのドナー登録者数は年々増加している。



(資料) 日本赤十字社及び(公財)日本骨髄バンクが提供した情報を元に厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室で加工

骨髄バンクにおけるドナーコーディネート期間

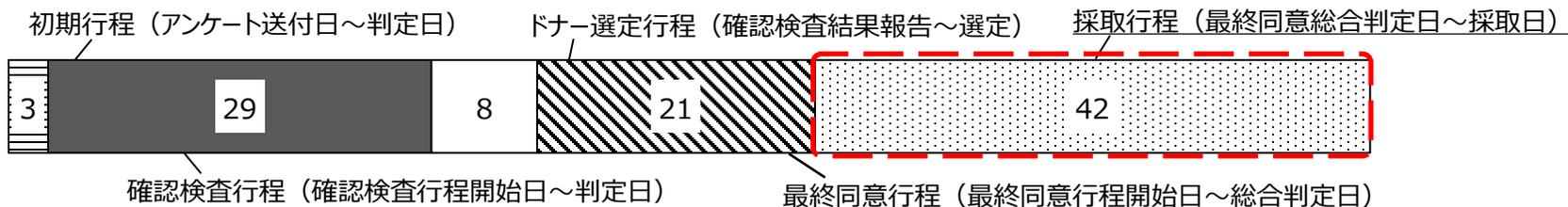
骨髄バンクにおけるドナーコーディネート期間は、

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行以降、短縮が図られている。2022年はオンラインによる問診票を導入したことで初期工程が前年より6日短縮したものの、依然として最終同意確認から採取までの行程（骨髄採取等を行う病院の手術室の確保やドナーの仕事の都合の調整等）の期間が長い。



初期行程におけるドナーからの問診表返信のWeb化により、今後、数日の短縮が見込まれる

図2 2022年度の行程別コーディネート期間中央値



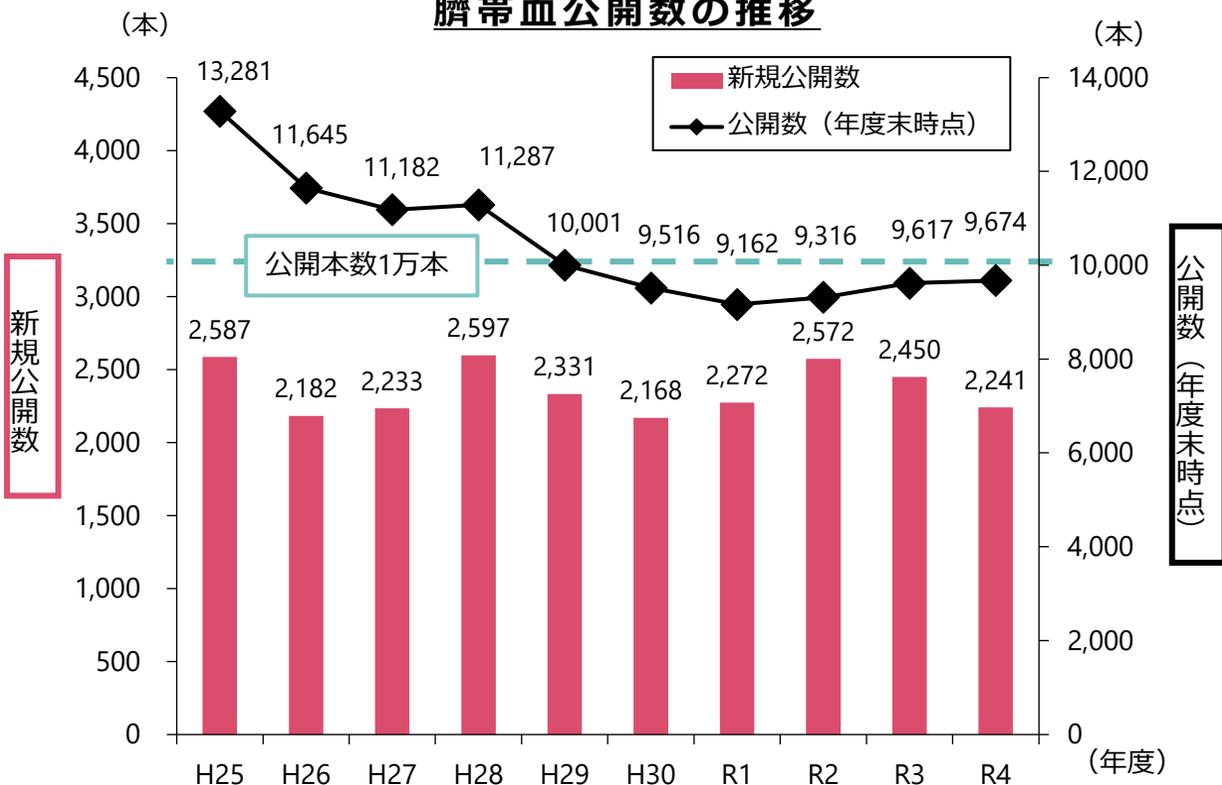
※ 1 採取に至ったドナーがコーディネートを開始した日から採取の日までの期間である。

※ 2 図2のグラフ内の数値は各行程ごとの中央値であり、図1の全行程の中央値とは一致しない。

臍帯血公開数の推移

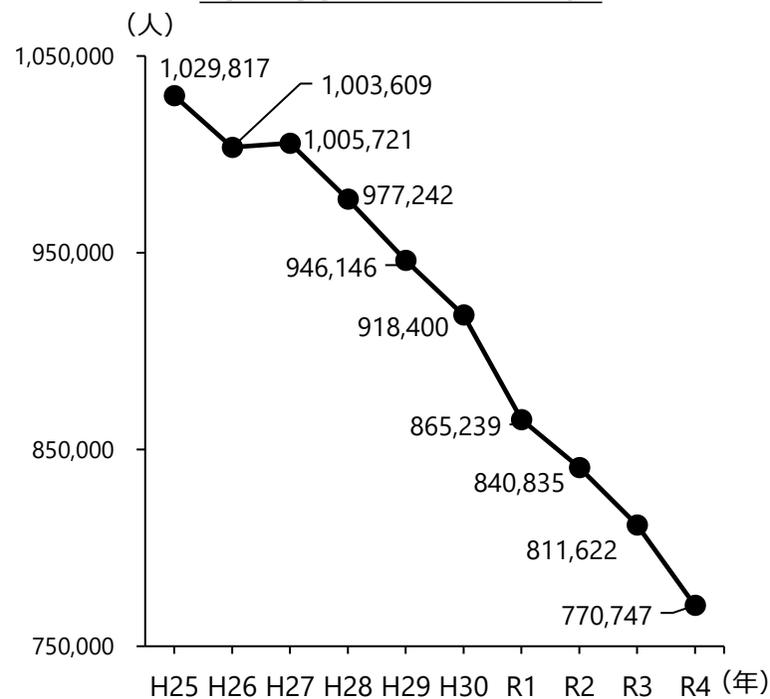
- 臍帯血公開数は、ここ数年横ばい傾向にある。
- HLA-A, B, DRの6抗原中5抗原以上一致する臍帯血が95%以上の患者で得られるためには、約1万本の臍帯血が必要である。

臍帯血公開数の推移



(資料) 日本赤十字社が提供した情報を元に厚生労働省健康・生活衛生局難病対策移植医療対策推進室で加工

(参考) 出生数の推移



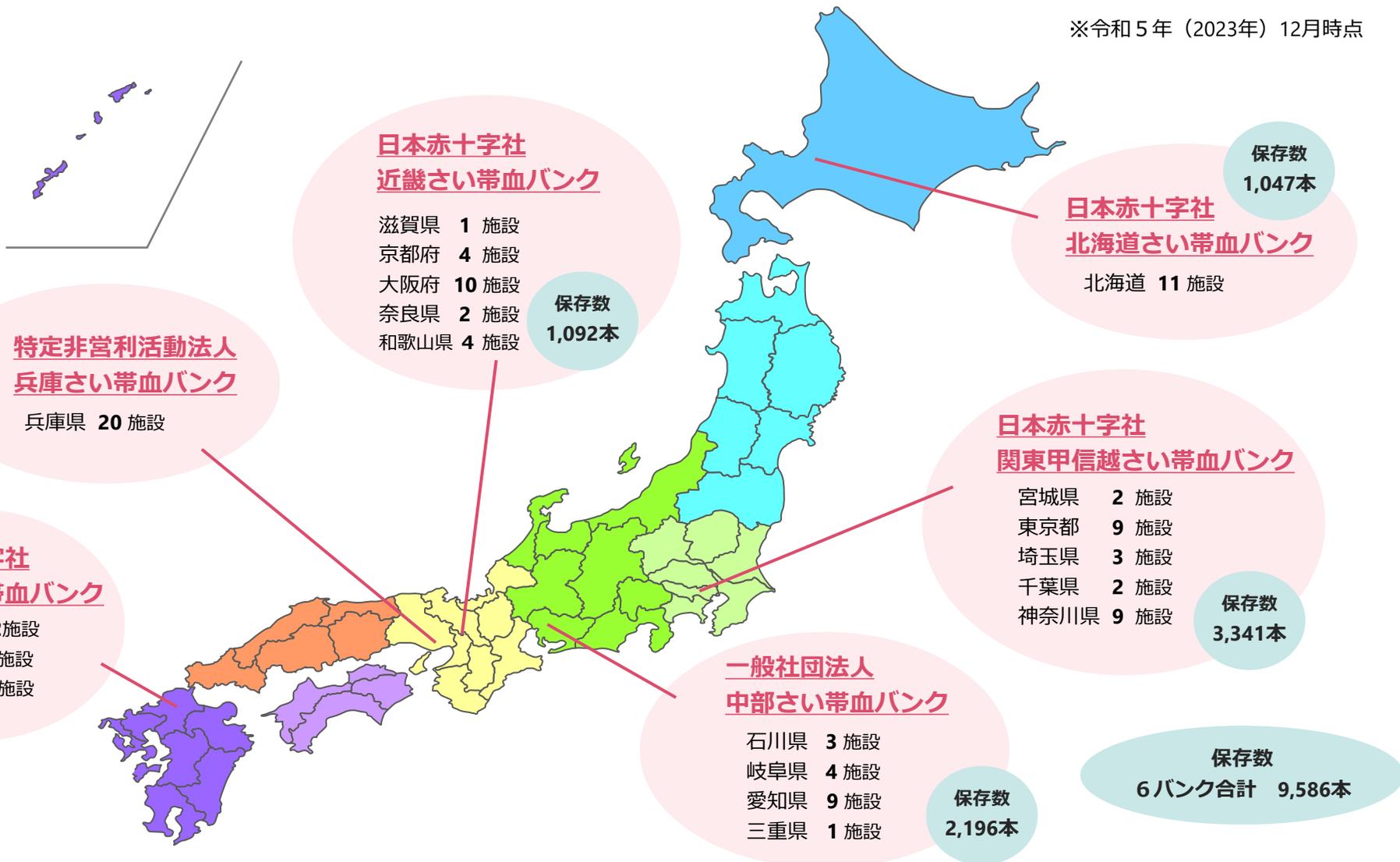
(出典: 厚生労働省「人口動態統計(確定数)より」)

さい帯血バンクの現状

さい帯血バンク 全国6バンク

臍帯血採取施設（さい帯血バンクと提携している産科施設） 全国109施設

※令和5年（2023年）12月時点



(資料) 日本赤十字社「造血幹細胞移植情報サービス」及び各臍帯血バンクHPの情報を元に厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室で加工